ダニエラ・バルチェッローナ

Daniela Barcellona ★メゾ・ソプラノ

2月、ビオンディ&エウロパガランテと来日。《バヤゼット》に登場

1999年の夏、ペーザロのロッシーニ・フェスティヴァルで《タンクレディ》を歌い、爆発的に有名になったメゾ・ソプラノのダニエラ・バルチェッローナがエウロパ・ガランテの《バヤゼット》で4度目の来日を果たす（2月19日・神奈川県立音楽堂）。ジェノヴァのカルロ・フェリーチェ歌劇場で《ファヴォリータ》のプレミエを控えているところを訪ねた。

●

――歌手になるきっかけは？

バルッチェッローナ（以下、B） 子供の頃から歌が好きで、オペラ好きの母と共にテレビでオペラを観たり、レコードを聴いては泣いていました。ピアニストになりたかったのですが、学校のコーラスでソロを歌ったりしているうちに、本格的に歌をやるよう勧められ、先生を紹介されました。それが夫です。アジリタも彼との勉強で獲得したものです。

《バヤゼット》が私にとって最初のバロック・オペラでした。《タンクレディ》でブレイクする数カ月前、やはりエウロパ・ガランテと共に、イスタンブール・フェスティヴァルに招かれて歌いました。今回の日本公演は演奏会形式なので、歌い回しでなるべく皆様に物語を分かりやすく表現するよう努めます。

エウロパ・ガランテは現代屈指のバロックのスペシャリストであるファビオ・ビオンディが立ち上げた、古楽器も駆使するオーケストラです。彼らとはパルマで《ノルマ》も演奏しました。ビオンディは音楽的にも人間的にも素晴らしい人物です。

バロック・オペラは、私の表現性にピッタリ合っていて、声楽的テクニックも十分に披露できるので大好きです。そして不思議なことに、若い聴衆が多く、彼らはオペラの将来を担っているのではないかと思います。現代の若者にとっては、ヴェリズモよりもバロックの方が精神的に近いということを、日本でも耳にしました。例えば、《ボエーム》で何故愛し合っていながら別れるのかは不可解でも、バロックのヒーロー物語は映画のようで共感しやすいそうです。

――日本についての印象は？

B 私達夫婦は前世が日本人だったかも、と思える程日本好きで、日本人の友達もたくさんいます。偉大な文化と歴史を持った国民だと思います。有能で仕事に対する姿勢も、他人を尊重するところも、時間厳守なところも好きです。今回も以前のように、たくさんの情熱と拍手で迎えていただけると嬉しいです。

（取材・文＝中　東生）

ダニエラ・バルチェッローナ